

### 3. 技術ノート

## ツバメの繁殖調査 — 商店街の事例 —

二村 一男

### はじめに

ツバメ (*Hirund rustica gutturalas Scopoli*) は昔から人々に親しまれた夏鳥で、巣作りの場所も人家や人の出入りする商店街の店舗などの身近なところである。

著者<sup>1)</sup>は、近年過疎化の進む京都府北部の美山町で山村地域におけるツバメの生息・営巣状況を継続調査しているが、今回は異なる環境である市街地の小規模な商店街での繁殖状況を調べたので報告する。

なお、本調査は環境庁の「緑の国勢調査」によるもので、1997年の身近な生きもののテーマは”ツバメの巣”であった。「緑の国勢調査」とは環境庁が実施する日本の自然に関する総合的調査で、正式には「自然環境保全基礎調査」といわれ、全国の植生や動植物の分布、海岸・河川・湖沼の改変の状況などが調べられており、今回の「身近な生きもの調査」もそのひとつである。

本文をまとめるにあたって御教示いただいた京都大学農学研究科森林科学専攻の渡辺弘之教授に厚くお礼申し上げます。

### 調査地及び調査方法

調査は、京阪電鉄宇治線の黄檗駅から南方に市道沿いを府道京都宇治線が交差する宇治橋東詰を終点とする約2.2kmの道路に面した店舗等、1戸建て住宅を対象にした194戸で行った。宇治市の中心街より北東約1.5km、近くを宇治川が流れ、周辺には茶畑やわずかに水田が点在している。また、付近には巨椋(おぐら)干拓田や宇治川源内<sup>2)</sup>がある。源内は西日本でも有数のアシ原が河川敷に広がり、8月から9月にかけてツバメの集団ねぐらになっている。調査地の市道沿いは防衛庁陸上自衛隊の関西地区補給基地、京都大学附置研究所、東宇治中学校、幼稚園などの公共施設、集合住宅、一般住宅、店舗、スーパーマーケットなどの家並みがほぼ連続している。

調査方法は、建物に出入りするツバメを観察しながら道路から直接巣が確認できる範囲とし、育雛中または巣内で親鳥が抱卵中のものを繁殖とした。また、4戸については住人から簡単な聞き取り調査をした。

なお、この付近のツバメの初渡来日は3月20日頃である。

## 調 査 結 果

繁殖状況は表-1のとおりで、調査対象戸数 194 戸に対する繁殖率は 12 %であった。繁殖していた戸数は1回目の5月18日は19戸、2回目の7月6日は24戸で、ほとんど1戸に1巣であったが、同じ建物に2巣が2カ所、3巣が2カ所あった。繁殖していた建物の種類は店舗が最も多く、繁殖していた巣の総数と店舗で繁殖していた数の割合は1回目は74%、2回目では83%であった。造巣場所は「アーケードの中のコーナー」で営巣していたものが47%と最も多く、次いで「アーケード中の壁」、「樋・蛍光灯などの上」の順であった。2回目では「アーケード中の壁」が25%と最も多く、次いで「ひさし」、「樋・蛍光灯の上」、「露出した壁」の順であった。アーケード（写真-1）とは店舗の出入り口に設けられたひさしの一種で、鉄パイプの骨組みにビニール製のシートを覆ったものである。繁殖回数は、2回が11カ所、3回が1カ所で、また、同時期に住宅の3カ所に営巣していた。営巣の多い地区は京阪電鉄三室戸駅周辺の店舗が集中している地域であった。

営巣の特異な例として、食堂の蛍光灯上部の巣は、古巣の上に三段に重ねて作られていた。ツバメは毎年新しい巣を作るものや同じ巣を補修して利用のものが知られているが、フラワーショップで壁に作られた巣は20年間も同じ巣を使っていた。ふとん店の2階のモルタル外壁に作られたツバメの巣を、スズメがとっくり型に変造して営巣（育雛）しているのを見た。この様子を家人に尋ねてみたが、いつ頃からスズメが横取りしたのかわからないとのことであった。ちなみに、著者<sup>3)</sup>はコシアカツバメの巣をスズメが横取りした巣を確認したことがある。有澤<sup>4)</sup>によれば、クマゲラの巣をシロハラゴジュウカラが繁殖のために横取りした観察記録を紹介している。大きなクマゲラの巣穴を、シロハラゴジュウカラが土壁を塗るように入り口の穴を小さくしてクマゲラを追い払った行動が観察されている。今回の巣もツバメとスズメの攻防がくりひろげられたことであろう。

4戸を対象に、ツバメに対する関心度を次の項目で調べた。

1. ツバメの巣をどんな気持ちで見えていますか？

①歓迎している ②迷惑している ③特に関心はない ④その他

歓迎している→2戸、特に関心はない→1戸、迷惑している→1戸であった。このうち迷惑している書店は、その理由として、ゲーム機の上に造巣したため育雛期にツバメの糞で機械が故障した。すぐに巣は取り払ってしまったとのことであった。

2. ツバメの巣作りについて、何か工夫していることがありますか？

については、いずれも何もしていなようであった。

## ま と め

延長 2.2 km の市道沿いに立ち並んだ商店の多い194戸を対象にツバメの繁殖調査を行った。調査戸数に対する繁殖数の割合は12%であった。繁殖していた建物の種類は店舗が最も多く、駅周辺の人の往来の多い場所の店舗に繁殖の密度が高い傾向がみられた。営巣場所は店舗の出入りに設けられたアーケード自体とその中の壁が多かった。これは巣が風雨に当たらず、カラス、ヘビなどの天敵から卵や雛を守る生活の知恵であろう。人通りの多い調査地と比較するために隣接する閑静な住宅地を調べたところ繁殖していなかった。ツバメは、天敵から卵や雛を守るために営巣場所を人通りの多い店舗などを営巣場所として利用するのではないかと推測する。

ツバメに対する住民の意識は無関心のようにであるが、本心はやさしく接して、見守っているようである。

今後の課題として、調査を継続して行い宅地化の進むなかで繁殖数の推移を調査することが重要であろう。

## 引 用 文 献

- 1)二村一男(1996)山村地域のツバメの生息分布－美山町の事例－．京大演演研． **4**． 54－ 57
- 2)京都府(1993)京都の野鳥． pp176
- 3)二村一男(1996)山村地域のスズメの生息分布－美山町の事例－．京大演集報． **29**． 7－ 13
- 4)有澤浩(1993)クマガラの森から． pp230． 朝日新聞社



写真ー1 店舗に設置されているアーケードと営巣場所（矢印の壁に営巣した）

表-1 繁殖状況

調査日：1997年5月18日 晴れ

No	営巣していた建物種類	繁殖状況	造巣している状況	備考
1	ミニスーパー	育雛中	アーケードの中の壁	2個の巣
2	お好み焼き店	"	アーケードの中のコーナー	
3	住宅	"	車庫	雛6羽
4	住宅(以前食堂)	"	アーケードの中のコーナー	
5	文具店	"	アーケードの中のコーナー	
6	書店(コンクリート3階建て)	"	1階のコンクリートの庇	毎年同じ巣
7	食堂	"	アーケードの中の壁	
8	クリーニング店	"	アーケードの中のモルタル壁	
9	クリーニング店	"	アーケードの中のコーナー	
10	住宅	"	玄関の壁	
11	郵便局	抱卵中	コンクリートの庇	
12	電気店(鉄骨4階建て)	"	1階の樋の上	
13	食堂	"	アーケードの中の灯具の上	
14	コーヒーショップ	"	アーケードの中のコーナー	
15	閉店コーヒーショップ	"	アーケードの中のコーナー	
16	写真店脇の通路	"	非常口灯の側面	
17	フラワーショップ	"	アーケードの中のコーナー	
18	パン店	"	アーケードの中のコーナー	
19	教会	"	アーケードの中のコーナー	

調査日：1997年7月6日 晴れ

No	営巣していた建物種類	繁殖状況	造巣している状況	備考
1	ミニスーパー	育雛中	アーケードの中の壁	3回目
2	うどん店	"	入り口付近の壁	
3	書店(コンクリート3階建て)	"	2階ベランダの庇	2回目
4	お好み焼き店	抱卵中	アーケードの中のコーナー	
5	スナック	育雛中	アーケードの中のコーナー	2回目
6	住宅	"	車庫, 玄関, 2階の壁	
7	文具店	"	アーケードの中	2回目
8	書店(コンクリート3階建て)	"	1階のコンクリートの庇	3巣2回目
9	食堂	"	アーケードの中の壁	2回目
10	住宅	"	車庫	雛3羽
11	自転車店	"	庇の樋の上	
12	ミニスーパー	"	倉庫の蛍光灯の上	雛3羽
13	理髪店	"	入り口のタイル壁	2回目
14	住宅	"	玄関脇の壁	
15	郵便局	"	コンクリートの庇	2回目
16	電気店(鉄骨4階建て)	"	1階の樋の上	2回目
17	理髪店	"	入り口の蛍光灯の上	2回目
18	洋服店	"	アーケードの中の壁・車庫	
19	閉店コーヒーショップ	"	入り口の壁	2回目
20	写真店脇の通路	"	非常口灯の側面	2回目
21	フラワーショップ	抱卵中	アーケードの中の壁	2回目
22	クリーンショップ	"	アーケードの中の壁	
23	パン屋	"	アーケードの中の壁	
24	仕出し屋	育雛中	車庫の庇	